

平成23年度 NPO 等活動支援団体と推薦理由

平成23年5月19日に開催された「第11回NPO等活動支援選定委員会」において、下記の7団体を支援することが決定いたしました。推薦理由(抜粋)は以下の通りです。

NO	団体情報	推薦理由(抜粋)
1	<p>【団体名称】 特定非営利活動法人 やんばるの森トラスト</p> <p>【代表者名】 宮城 邦治</p> <p>【事業名称】 大宜味エコミュージアム・山・川・海との共生プロジェクト</p> <p>【会員数】 25人</p> <p>【活動分野】 環境の保全</p> <p>【事業内容】 大宜味村大保ダムおよび大保大川周辺をエコミュージアムとしてとらえ、地域活性化と未来を担う子供達へ大宜味の自然・文化を継承していくプログラム。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大保川の現状マップ作成:4-6月 2. ワーキンググループ:7-8月 3. 学校での啓蒙活動:通年 4. 環境回復活動:9-3月 5. 生き物図鑑作成:5-3月 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山原の自然を山・川・海を一体として保全し、環境教育に活かしていくエコミュージアム事業は重要。ダム事業で自然生態系への影響が懸念されるが、その影響を評価していくことにもつながると思われる。助成効果が期待できる。 ・ 沖縄の中でも貴重な自然が残されている山原地域を将来へ残していくため、支援効果は大きい。活動実績などから、取組体制は確立されている。 ・ コンセプトがしっかりしている。自然と開発の共生を限りなく追及する活動として評価したい。学校との連携や住民との協働も活動の継続性を確保のため重要な取り組み。 ・ ダム建設を機に地域住民と専門家、ダム事務所が協力しながら環境学習・活動を行うことは前向きで力強い。 ・ 識者と地元活動家の連携体制もしっかりしており、実現可能性が高い。また、将来の活動計画も明確であり、継続性が認められる
2	<p>【団体名称】 名護博物館友の会</p> <p>【代表者名】 宮城 一夫</p> <p>【事業名称】 入浜式製塩法による塩田復興事業</p> <p>【会員数】 80人</p> <p>【活動分野】 地域づくりの推進</p> <p>【事業内容】 全国で屋我地島でしか行われていない「入浜式製塩法による塩田の塩作り」復興を足がかりとした地域活性化事業。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 塩田修復整備:5-6月 2. 塩田作業:7-1月 3. 我部区塩田祭事業:6-8月 4. 体験事業:8,11,1月 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的な入浜式製塩法を復興し、保存していくことは、沖縄の製塩法を復興することにつながる。また、その製塩法を北部地域に限定することなく、県内や観光客にも理解してもらうことも大切である。 ・ 塩づくりの復興を手がかりに地域活性化や環境保全を図る活動として期待できる。 ・ 地域の伝統の掘り起こし作業としておもしろい。塩作り体験活動は、児童にとって有効な環境教育になりえると思う。 ・ 伝統的な技法は継承者がいないままに失われていくことが多い。全国でここにしかない塩づくりの製法を地域資源として再生させ、地域活性化に繋げる取り組みは応援したい。 ・ 新たな地域産業創出も期待でき、地域おこしの視点からも有効と考えられる。

3	<p>【団体名称】NPO 法人 沖縄災害救助犬協会 【代表者名】 真榮城忠之 【事業名称】 災害救助犬の育成・活用支援事業 【会員数】 266 人 【活動分野】 防災・災害救援活動 【事業内容】 災害救助犬を育成し、防災・災害救援活動に貢献する。市町村の防災訓練へ災害救助犬を派遣し、県民の防災意識の向上に役立てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害救助犬指導手の県内研修: 4月 2. 被害者捜索訓練: 5-11 月 3. 那覇市・浦添市の訓練に参加: 12 月 4. 救助犬の認定審査会: 3 月 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害救助犬の育成は県内に限らず、全国的、国際的にも貢献が期待できる事業であり、助成効果は大きい。 ・ 災害時における災害救助犬の必要性、また行方不明者の捜査などの実績があり、支援効果が高いと思われる。 ・ 過去支援団体ではあるが、今回の東北大震災の現状を見ると災害救助犬の必要性がクローズアップしている。 ・ 震災直後の救助という視点から必要性の高い事業である
4	<p>【団体名称】NPO 法人日本ウミガメ協議会 附属黒島研究所 【代表者名】 若月 元樹 【事業名称】 八重山諸島における ウミガメ標識放流調査 【会員数】 7 人 【活動分野】 環境の保全 【事業内容】 ウミガメの生態をを守るための標識放流調査を行い、八重山地方のウミガメの保護に役立てる。また、地元漁師への聞き取り調査により、ウミガメの保全と管理に関する情報を収集する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウミガメ専用網による採取: 通年 2. 放流活動: 通年 3. 漁師聞き取り調査: 5,8,11,2 月 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八重山の観光資源の最も重要な自然資源の調査研究は、重要である。 ・ ウミガメの生態を把握するために、珊瑚の分布調査も 1986 年から実施しており、息の長い活動を行っている。また、啓蒙活動で修学旅行生を受け入れるなどの活動も行っている。 ・ 長年にわたり地道に継続している活動であり、積み上げてきた調査記録は大変に貴重な資料である。地元への啓蒙活動にも力を入れており、次世代の育成に効果が期待できる。
5	<p>【団体名称】 NPO 法人 なはまちづくりネット 【代表者名】 大城 喜江子 【事業名称】 豆腐で地域おこし! In 繁多川 【会員数】 19 人 【活動分野】 地域づくりの推進 【事業内容】 市内最大の湧水量を誇る繁多川の井泉を利用し、かつて豆腐づくりの盛んな土地であった繁多川で、豆腐による地域おこしを本格化し、豆腐を活用した産業振興に寄与する。</p> <p>豆腐ファンクラブ: 5,7,11 月 豆腐マガジン: 隔月実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島豆腐に注目した地域おこしにより、大豆の栽培から沖縄の食文化の啓発まで、幅広い事業として支援効果は大きい。 ・ 繁多川という環境の中で生まれてきた豆腐を、地域づくりという視点で新たな光を与えたところがすぐれている。ユニークな活動として評価したい。 ・ 那覇市内で湧水池が多く点在する繁多川の特長を生かした豆腐づくり、それも沖縄在来種の大豆を栽培し作る豆腐が地域の宝となっていく。年代を問わず美味しく楽しい街づくりといえる。 ・ 沖縄の食文化の継承、地域ブランド創出にもつながる点で有意義。

	<p>豆腐食品開発:7-8、10-11月 豆腐サミット:9月、豆腐の日:12月 豆腐検定:11-1月</p>	
6	<p>【団体名称】 バスマップ沖縄 【代表者名】 谷田貝 哲 【事業名称】 「バスマップ沖縄」作成及び配布 【会員数】 5人 【活動分野】 その他 【事業内容】 過度の車社会沖縄で、バスマップを作成し、利用者の利便性を高める事により、バスやモノレールなどの公共交通利用を促進する。 1. 現地調査:6-7月 2. データ修正:7-8月 3. バスマップ作成:8月 4. バスマップ封入作業:9月 5. バスマップ配布:10-3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ クルマ社会である沖縄において、公共交通の利用促進は環境の保全その他、社会的にも意義の大きい取り組みである。 ・ 車社会の沖縄において、公共交通利用の推進に役立つ事業。これまでもマップを作成しているが、バス利用を促すためには、更新作業は必要であり、支援効果は大きい。 ・ 公共交通利用促進を図る上で有効な事業。活動内容も明確で実現の可能性が高い。
7	<p>【団体名称】 エコショップ がじゅまるガーデン 【代表者名】 山崎 新 【事業名称】 こども地域支援プロジェクト ～南城市・八重瀬町～ 【会員数】 3人 【活動分野】 地域づくりの推進 【事業内容】 子供達が日常生活でどのように地域と係っているかを知り、地域への関心を高め、地域に誇りを持つ事を目的とし、「子供支援隊プロジェクト」を南城市と八重瀬町で実施する。 1. 地域資源の開拓:4-8月 2. ニーズの把握:4-8月 3. 学校への説明:6-10月 4. 授業コーディネート:6-2月 5. パンフ作成:7-3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの環境教育を地域ぐるみで進めていくことは非常に重要。地域内の関係諸機関の連携強化を進めていく上でも重要な取り組みであり、助成効果が期待できる。 ・ 学校と地域をつなぐコーディネートがすぐれている。南城市は、環境教育に力点をおいており、効果が期待できる。 ・ 子供たちが学校で学んでいる事と地域の具体的な出来事をマッチングさせる事ができたら、きっと学びは楽しくなるだろう。地域のお年寄りと子供達の交流を上手くコーディネートできたら相乗効果が生まれるかもしれない。